

2011年 **NO.34** (継続179)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 http://www.forest-kanagawa.jp 発行人 島岡 功 〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

続・寄*山の神講談義/ "寄沢水源の森の祠の歴史

森林文化部会 武者

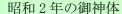
"森のなかま"平成17年12月号に「山の神」に関して一文を載せましたが、今回「続山の神講」として寄 沢水源の森の祠の由緒をお話します。

いつの頃からか、亭主が女房のことを「山の神」と言ったり、「カミサン」又は「オカミサン」と表現し てきたように、山の神は一般的には女性とされてきました。しかし嫉妬深く、気難しく、中年醜女で、ボロ をまとっているのだそうです。さらに面白いことには、歌・音曲が大好き(今昔物語、遠野物語による)ら しいのです。

山姥の話もあるように、どうやら山奥には女性が住んだほうが似合っているらしいのです。

寄沢水源の森の祠の山の神は女性又は男性であるかの前に、寄水源の森の祠の歴史をお話しします。 現在の祠の奥に安置奉られている御神体は、二体(板)です。一体は先の祠が建立された時のものです。し かも御神体の裏書に祠の由緒が書かれています。もう一体は現在の祠を再建した時の御神体です。







平成4年の御神体

その昔、寄沢水源林の森がまだ森村産業の山林ではなかった頃、(明治45年以前)寄村の7つの部落が、 又個人が、それぞれに山林を持っていました。その頃はたぶん山持ちの数ほどではなかったにしろ、幾つか 祠は在ったでしょう。しかしある程度存在が分かっている祠は「寄沢」と「山ノ神渡ノ沢」が合流する辺り にあったのではないでしょうか。又想像するに、小さな石造りの祠であったでしょう。

そこに在っただろう理由の一つに、その昔から雨山峠、鍋割山から下流水棚沢辺りまでの沢は、暴れ沢と して落石、崩壊とがいつも続いていて、特に嵐の前夜、前ぶれのように崩壊する音が不気味で、山仕事をし ていた人々に、神が山を移動していると言われていました。それを神聖視して「山ノ神渡ノ沢」の名がつい たようです。ですからこの辺りに在ったのではないかと想像します。

又、御神体の裏書に(本山神社ハ従来北方ニ拾町ニアル俉稱山ノ神云々・・・・・)に記されている北方ニ拾町とは、基点が何処かはっきりしませんが、その辺りだったのだと考えられます。そして神の祟りが無いように祠を、お祭していたのでしょう。

その後、大正12年の関東大震災の際に崩壊、出水と同時に「山ノ神渡ノ沢」の祠全部が流出したため昭和2年4月17日に現在の地にこの木造の祠(3尺四方)と鳥居を建立し、(森村山林事務所)、中に御神体(板)「山神権現社」を安置し、式典を行って奉移しました。 (御神体裏書参考)

その後、60年ほど経ち、だいぶ朽ちたのでしょう平成4年4月17日現在の祠(およそ1間四方)、及び鳥居を建立しました。(森林産業(株))この時新しい御神体(板)再建山神権現社が「山神権現社」とともに安置されました。

その後鳥居が朽ちてきたので、平成 18 年 12 月 16 日、かながわ森林インストラクターの会が後沢の間 伐材を加工し、鳥居を再建し、現在に至っております。

その様な歴史から、昭和2年の御神体も裏書が大切ですから、御神体が二体ということになったのだと 考えられます。

ここで寄沢水源の森の祠の山の神は女神又は男神?なのか考えてみます。先ず御神体の板に書かれたの「山神権現社」の意味を考えます。

しかし御神体と言う不確実な物はいろいろ在ります。例えば御神体には物や「場所」が対象になっています。では「社」(シャ)は如何でしょう。音読みで(ヤシロ、ホコラ)とすると、「山神権現」様がいらっしゃる祠と言う意味に解釈が出来ます。又「社」(シャ、)のもう一つの音読みは(クニツカミ)です。クニツカミは「土地の神」という意味です。こちらはカミ様、カミ様が重なりますから考えなくて良いでしょう。

仏教の仏が仮の姿で日本の神々として現れたものであるという考え方があります。(本地垂迹説)どうも日本の神様は名前があっても、お姿は見えないものなのです。そこで権現とは仮に仏の姿を借りた神ということでしょう。では「山神権現」の本当の神は誰でしょう。

日本神話によると「ヤマノカミ」に当たる神は、大山祗大神「オオヤマズミオオカミ」です。 寄の小さな祠の「御神体」に直接その名前を書くことは恐れ多かったのでしょう。他の山奥の祠の多くは 同じようでした。(例外もありますが。)この「オオヤマズミオオカミ」は古事記によると**男神**ということ になっています。妻は「カヤノヒメ」(草の神)でその二神の間の子の一人に「コノハナサクヤヒメ」が います。

その様なわけで、硬いことを言うと寄水源林の祠の神は男神ですが、山神権現社を軽く考えれば**女神**でも良いのではないでしょうか。

参考文献等

古事記(新潮日本古典集成)、今昔物語(同左)、神奈川の林政史、丹沢・桂秋山域の山の神々 (佐藤芝明著)、現代に活きる山の神伝承(佐藤芝明著)、寄水源林の祠御神体裏書き 平成17年1月16日ブラッシュアップ資料

平成23年1月16日(日)やどりき水源の森 祠前にて一年の山仕事の安全を祈念して「山の神祭」が1期~11期、59名で執り行われました。(写真:広報部 M)













跳ねて踊ろう ノウサギ君

神奈川県森林チーフインストラクター 飯 村 武

今年の干支は卯(兎)である▲獣類は通常1頭(匹)、2頭(匹)と数える。獣の兎に限り、俗に鳥と同様1羽、2羽と数える。その由来。釈迦の前世はウサギであった。だからウサギは禁断の実。しかし、この実を食べたいと思うのが人情というもの。

狡賢い人間どもは悪知恵を働かせ、ウサギは「ウ」と「サギ」と言う鳥だ?との迷論を作り、だから食べ ても仏罰はないとした。好都合の事は瞬く間に世間に広まるものだ。以来ウサギは鳥の仲間にされてしまっ た▲我国のウサギ目はナキウサギ科とウサギ科に大別される。前者は後者に比べ原始的で北海道にすむ。ウ サギ科はノウサギ属とクロウサギ属に分けられる。我国にはこれらの他に広くカイウサギが飼われている。 ヨーロッパ産のアナウサギを家畜化したもので、1887 (明治 20) 年に移入されたものであり、ノウサギと は縁遠い。だから、干支の卯は当然ノウサギと言うことになろう▲クロウサギ属のアマミノクロウサギは鹿 児島県の奄美大島と徳ノ島にすむ。穴居生活の原始的な獣とされ、特別天然記念物に指定されている。開発 著しい 1970 年代、ゴルフ場造成阻止のため、この獣が原告として鹿児島地方裁判所に提訴した。地裁は過 去に事例なしとの理由でこれを却下。しかし、これが引き金となって霞ヶ浦のヒシクイが水戸地裁に、エゾ ナキウサギが札幌地裁に、川崎市生田緑地・岡本太郎記念館建設の阻止でホトケドジョウ・キツネ・ワレモ コウらが横浜地裁に提訴した。結論はいずれも却下だが、我国の自然保護運動史にそれなりの足跡を残した ▲我国のノウサギ属は次の5亜種に分けられる。エゾユキウサギ(北海道)トウホクノウサギ(東北~山陰 地方)、サドノウサギ(佐渡が島)、オキノウサギ(隠岐ノ島)、キュウシュウノウサギ(九州、四国、本州 南西部)。体毛は茶褐色だが、前3者は冬季には白変する。この要因として2月の年平均気温や日長などが 注目されている。神奈川県に生息するのはキュウシュウノウサギ▲交尾期は2~3月で、雌は陰部から橙色 の液を分泌する。雄はこれによって興奮し、配偶の争奪で雄同士は決闘をする。勝者は後足を蹴り上げ、尾 を振り、熱烈に求愛する。愛の抱擁後50日、4月頃2~4頭(羽)の子を生む。「タ、ラッタ、ラッタ、ラ ッタ・・・」で始まる童謡「ウサギのダンス」は交尾期の様(サマ)がモチーフだ▲ノウサギは日中は叢林 に潜み、夜活動する。草地は食堂でありサロンだ。前脚に比べ後脚は特段に長い。キツネなどの天敵に襲わ れたとき、この脚で飛ぶように逃げる。その逃げ方は1ha位の範囲を20分位で旋回するもので、元のとこ ろに戻る。この習性を「回帰性」と呼ぶ。回帰したとき叢林に向かって横跳び(約2m)をする。この動作 が「止め足」で、これによって嗅覚の追跡者はまんまとはぐらかされる。ビーグル犬を使ったノウサギ猟は、 この回帰性に着目した猟法である▲ノウサギはテンやタヌキ、タカやフクロウなどに常に狙われている。と りわけキツネは手強く、昔からノウサギの増減はキツネの増減にかかっていると言われてきた。ノウサギの 耳は大きく、しょっちゅう動かしている。頭を固定していても前後左右360度の集音が可能だ。これによっ て天敵の接近をいち早く擦知し、自慢の後脚で脱兎を決め込む▲拡大造林盛んな頃、ノウサギは「害獣」の 烙印を押された。新植のスギやヒノキの頂部をナイフで斜めに切ったようにしてしまうからだ。新植が疎遠 になったこの頃は脱兎に遭遇しないばかりか、愛らしい糞粒さえ見つからなくなった▲世は移ろい、里地里 山の保全・再生・利活用が見直される時代になった。古来ノウサギは毛皮や蛋白源としての実利ばかりか、 詩・歌・俳諧・寓話などに登場し、私たちの情緒を育んでくれるやさしい存在である。ノウサギが飛び跳ね ていてこそ里地里山の再生は、その実をあげることが出来よう。換言すれば、今年の「卯」は「掛け声ばか りでなく、生活する里山再生に取り組め!」と言っているのかも知れない。



写真:広報部





私の認識

野鳥その85

高橋 恒通

昨年の晩秋、越冬の為に我国に飛来しているナベ ヅルとマナヅルの数羽が、強毒性の鳥インフルエン ザウィルスH5N1亜型に罹かって死んだニュース がマスコミ報道されました。

故に予定を変更してツル科の野鳥のご案内をさせて 頂きます。

ツル目ツル科の野鳥は世界で約16種、我国では7種と言われてます。そのトップバッターはナベヅル(漢和名:鍋鶴、英名:Hooded Crane、体長L=♂96♀92 cm、特別天然記念物)です。♂♀同色、此の冬鳥は国内で観察できるツル科の中では小形で、体色は首が白く、嘴は黄色、その基部が灰黒色、額の部分に小さいが赤色がありポイントとなってます。



そして胸前から尾の先までが 黒灰色、脚は淡灰色です。 幼鳥は首の部分が白色でなく 淡褐白色で額の赤色がありま せんので成鳥と寸法的に同じ でもすぐ見分けが出来ます。ナ

東部など亜寒帯の局地的な繁殖地から、種全体の約9割近くの個体数が越冬の為に我国へ飛来していると言われております。

ベヅルはシベリヤ

年毎に飛来数に多少の変動がありますが、鹿児島県 出水市周辺、所謂、出水平野に約7,500羽が、そしてもう1箇所、山口県熊毛町(地図で見ると下松市の北東部)の八代と呼ばれる地域に来ます。

繁殖地と同様に越冬地に於いても何故か局地的と言う共通点に私は好奇心を増幅されております。

越冬地の棲息環境は、水田、畑、河川や草原ですが、出水平野では水田地域の特定の場所に穀物などが給餌されております。従って多くの個体が集合して過ごす光景が見られるそうです。

彼等の餌は草の実や根、昆虫、魚類等と言われてますから、人間による給餌は野鳥の自然の採食行動様式を正確に観てない事になっているかも知れません。それは兎も角、越冬地その啼き声は、テレビで放映されるタンチョウの声に似た「クルルー」や「ククルウ」などであります。私自身は図鑑に対応している鳴声CD(別売り)で聴いて判りました。

さて、私が本稿で吐露したい事は鳥インフルエンザとの係わりであります。私は言われるまでもなく素人の鳥好きで、ナチュラリストモドキなのですが、昨秋マスコミで騒がれた中で、有名な鳥類学者の大学教授が「~種の絶滅の恐れがある~」と発言されてました。

然し私は「その様な場面は先ず有り得ないだろう」と認識しています。その根拠は、あれ以来に次々と 伝染罹病して死んだ個体数に対する報道が無い事が そのひとつです。多分、春の北帰行までに個体の 大量死など起こらないだろう・・・・と私は信じ ております。

多くの人はテレビの教授の発言に、養鶏場のケージの中で大量死をした鶏をイメージするでしょう。大自然の中で生活している野鳥達は、人間が大量捕獲や棲息環境を大幅に変更した場合以外は、意外に渋太い部分を保有しているのも事実だと認識しております。

伝染罹病して死ぬのは体力の弱い幼鳥、老鳥、 傷病鳥のみだろうと私は確信しています。

警鐘を鳴らしたり、注意警戒を促す事は大切ですが、それが大学教授や専門家の発言はくれぐれもその影響力に配慮したものであるべきだと思います

所で、ナベヅルは山口県の県鳥です。因みに山口県の県木はアカマツ、県花はナツミカンの花です。



<参考資料>

- ・日本の野鳥 山渓カラー名鑑 編 高野伸二 解説 浜口哲一 森岡照明 叶内拓哉 蒲谷鶴彦 他 山と渓谷社
- ・日本の野鳥、山渓ハンディ図鑑7 写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部 直哉、解説(鳴声)/上田秀雄

山と渓谷社

・イラスト ~春~

自然の中での野鳥

自然観察部会・部会長 野田重雄



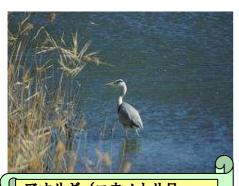
1月10日成人の日。太陽には恵まれたのですが、強風のおまけつきの一日を東京湾野鳥公園にて21名の参加者を迎え探鳥会を行ないました。キンクロハジロ、ホシハジロ、ハシビロガモ、アオサギ、コサギ、イソシギなどの水鳥に加え、カワセミ、モズ、ハクセキレイ、ジョウビタキ、チョウゲンボウなど合計21種類の鳥が観察できましたが、強風のためか種類も数も少なく探鳥会としては不満の残るものでした。しかし、観察小屋やネイチャーセンターなど設備が完備されており、一日中寒さに震えることなく、水鳥と野の鳥をゆっくり観察することができました。

ところで、一旦芽生えてしまうと動くことのできない植物たちは、子孫を残すために長い年月を かけて沢山の工夫をしてきました。その一役を担っているのが鳥たちなのです。鳥にだけ目を向け ることなく、鳥たちたちを取り巻く環境や自然の中での役割などにも目を向けるための探鳥会です。

以前、ここで数回観察会を行なったことのあるリーダーは、なぜ鳥がこんなに少なくなってしまったのかとびっくりしていました。天候のせいだけではなく鳥たちを取り巻く様々な環境に変化が起こっているのではないかと話が発展していきました。こんな楽しい会話のできる探鳥会です。

植物から自然を見がちですが、目線を変え鳥の世界から自然を見ることも大切ですね。いろいろな立場から自然を見ることができるようになったらもっと楽しい観察会ができそうですね。

私たち森林インストラクターとしては、森林の状態や働き、植物と生き物との関係、自然や植物と人間とのかかわりなど様々なことを、自然から遠く離れてしまった一般の人々、特に、子供さんや若年層の方々に伝えることが大切な役目の一つだと思います。いろいろな角度から自然を観察しましょう。



アオサギ (コウノトリ目・サギ科)

背が灰色した最も大きなサギ 九州以北での林で集団繁殖し 各地の水辺で見られる。成鳥 では首が白く、頭に黒い冠羽 がある。





写真: 広報部 (森 義徳) 解説: 野鳥観察ハンディ図鑑より

活動短信

 $11/23 \sim 12/5$

工藤建設 (株) フローレンスガーデン感謝祭

日 11月23日(火・祭日)

場 同社の駐車場(横浜市青葉区新石川)

参 660 名

スタッフ 永野⑥他 10名

✓ L森本⑤、米本②、渡辺③、宮本④、中島⑨、 工藤建設(株)勤務の6期永野さんとのご縁でのネットワーク活動で、戸建住宅を購入されたオーナー様への謝恩会。4回目となる今年は、屋外で3ブースを使用したミニ街頭キャンペーンとなり、紙芝居・丸太切り・トトロ・募金とフルラインでの展開となった。来場者数660名と盛況で、クイズの設問や飾り付けなどにも工夫が凝らされていた。今後共、機会を捉えて、「かながわ水源の森林づくり」のPRをしていきたい。
(記 5期 森本)

パートナー林活動 間伐・リースづくり

日 11月27日(土) 9時半~13時

場 やどりき水源林

参 (株) 日立電子サービス 46名 (子供 16名)

スタッフ 日立電サさん 佐藤他5名

イ L渡辺③、落合③、横山⑤、

活動開始前:日立電サさんスタッフと打ち合わせ、 作業道具の点検と準備、リース担当落合さん下準備、 リーダーは現場確認。

10時 日立電サさんの挨拶でスタート、リーダーからは水源林全体の説明、ストレッチ後、間伐、リースづくりと分かれる。間伐は2班体制、私は2班を担当した。現場は足場の悪い斜面で石が多く、特に注意が必要な場所で、安全作業が第一にと全員で確認。作業は"掛かり木処理"に時間がかかり悪戦苦闘の末、伐倒の際に枯れた立ち木が同時に倒れ参加者の目の前へ"ヒヤリハット"を体験させてしまった。2班リーダーとして大変申し訳なく反省しております。下山後、記念撮影をし休憩棟前で終了した。帰路、リースづくりに参加された方々の喜びの声が多く聞かれた。

パートナー林活動 間伐、自然観察、木工

日 11月27日(土)晴れ 9時半~15時

めどりき水源林 ルネサス半導体の森

シールネサスエレクトロニクス (株)

22 名 (男性 12 名·女性 4 名·子供 6 名)

県 小林課長

イ L佐藤(5)、松本(8)、

ールネサスエレクトロニクス (株) は会社の統合によって社名が (旧NECエレクトロニクス (株))変更後、初めて森林づくりに参加された。

午前はパートナー林まで自然観察をしながら歩き間伐作業に移った。初参加者も多く、急斜面での作業だったので、初めにリーダーによるデモンストレーションが行われた。特に"掛かり木"にならない為の注意、伐倒方向には念入りの説明があった。女性、子供は枝払い作業に集中した。

その後 2 班に分かれ間伐作業に入る。皆、明るくなった森を見上げ満足気でした。

午後は、間伐したヒノキを早速活用しコースター作り、リース作り、柿の葉の人形作り等をした。その中で、コースター作りに人気が集まり、ヒノキの香りを楽しんでいる様でした。

自作のコースター、リースとお土産も出来解散となった。事故もなく、無事終える事が出来ました。

(記 8期 松本)

ふじの体験の森「やませみ」 間伐

日 12月2日 (木) 曇り 11時~15時

ふじの体験の森やませみ&大日野原地内の杉檜 相模原市立淵野辺東小学校 5年生137名

教師 6名

スタッフ やませみ職員 篠原主事 他5名

寸 古館

I L小野⑦、国分③、島岡③、渡辺③、高崎④、 宮本④、佐藤⑤、鈴木孝⑥、愛木⑦、内野⑨、 小沢⑨、青木⑩、海野⑩、松山⑩、

<森林のおくりもの>で学習した内容を間伐を通して実体験し森林の役割や環境についてより理解を 深める事を目標に活動を計画した。

夕方より雨との予報で開始時間を 30 分繰り上げ 12 時には装備を整え現地へ向かった。現場は 30 年生 の杉・檜林で土地は概ね平坦で足場は良好、作業に 先立ち間伐の意義や作業上の諸注意など全体説明後 12 班に分かれ作業開始、我々14 名と教師、スタッフ が各班に 2 名ついて本日の学習目的に沿った講話を 交えながら作業(伐倒・枝打ち・玉切り・コースター作り)の指導を行い予定時間内に無事やませみに 帰着の後、班別に質問や感想発表などまとめを行い 15 時終了した。

事前学習の成果か、本日の作業に関して有る程度の知識もあり話を真摯にきく態度は好感が持てた。

当施設は旧澤井小学校(平成18年閉校)を改修した相模原市の施設で陣場山への登山や夏の川遊びなど環境に恵まれスタッフも熱心で今後この様な機会が増えてくるものと思われる。(記 7期 小野)

パートナー林活動 間伐 自然観察 木工細工

日 12月4日(土)晴れ 10時~12時

場 やどりき水源林

J X 日鉱 日石エネルギー(株)162名 間伐 55名・自然観察 41名・木工細工 66名

☑ L渡辺③、高橋③、横山⑤、斉藤⑥、小野⑦、 山崎⑦、中島⑨、海野⑩、金森⑩、松永⑪、 大塚⑪、

10 時開始。間伐、自然観察、木工細工で親子参加が多かったです。木工は台付きのトトロを作りで、子供達は夢中でドングリを加工していました。どの班も親子で楽しく作業ができ、「また来たい!!」「もっと作業したい」との声が多く、参加者は大満足の様子でした。

当日は、間伐作業後の帰路に落石による負傷が1件あり、今後の対策の為、ヒヤリハット防止について話し合いました。 (記 11期 大塚)

県民参加の森林づくり

日 12月4日(土) 晴れ 8時半~15時 場 山北町世附(水源林・上ノ山) 参 一般応募者 70名 財 京極課長 永良 寿 素木

高橋課長、永島、 看 青木 山北町森林組合 鈴木

✓ L福島孝⑨、武川⑥、坂齋⑦、久保⑧、 松村晴⑧、鈴木朗⑨、高橋⑨、辻村⑨、 水口⑨、大澤⑩、角田⑩、 研 上野⑪、鳥飼⑪、

前日の荒天から一転し,清々しい晴天に恵まれ絶好の作業日和となった。当日欠席が10名あったが70名の一般参加者。間伐作業の危険性、近接作業禁止など安全第一を強調し作業を開始した。

上ノ山水源林での森林づくり活動は昨年に続いての2回目となり、引き続き17年生の杉の間伐を活動のメインとし、植栽後一回も手入れされておらず昨年も手の及ばなかった部分については枝打ちも実施した。午前から午後に亘る作業で本日の予定を超え作業終了。全く未手入れの部分もあっただけに、暗い杉林が日の射す林に変わっていく様は素晴らしいものであった。 (記 9期 福島)

酒匂川水系保全協議会設立50周年記念事業 「かながわ水源の森を育む交流会」

|日| 12月5日(日)晴れ 10時~15時

場 山北町大野山中腹・丹沢ビジターセンター付近 と小菅沢。

参 一般参加者82名(小学生14名) 加藤小田原市長他自治体参加51名(県西部2市 8町村・横浜・川崎地区)

主催 酒匂川水系保全協議会設立 50 周年記念事業 実行委員会(小田原市環境部 環境政策課) 神奈川県西部広域行政協議会

スタッフ 山盛りの会 大森。川島、田中(敬称略) イ L鈴木⑤、島岡③、清水③、森本⑤、小野⑦、 山崎⑦、三浦⑧、金森⑩、小笠原⑩、海野⑩、

(今回の活動短信は、終日参加された"小田原市長"が、その日の活動参加感想文として、市長のホームページ日記として発表されました。小田原市のご承認をいただき、全文掲載させていただきます)

市長の日記

5日は、素晴らしい快晴に恵まれた中、酒匂川水 系保全協議会設立50周年の事業として、神奈川県 西部広域行政協議会と共催で「かながわ水源の森を 育む交流会」と題した、森林保全活動の体験イベン トとなどが行われました。会場は、私たちの水源で ある酒匂川上流域の、大野山中腹にある人工林と、 丹沢湖ほとりの玄倉地区の小菅沢。

県西部 2 市 8 町村の住民の皆さんをはじめ、酒匂川の水を飲んでいる横浜と川崎からも、両市の職員とその家族の皆さん、県の水道企業集団の皆さん、小学校で森林をフィールドにした活動に取り組んでいる芦子小学校と早川小学校の校長先生や教員の皆さんなど、総勢130名近い参加者で、にぎやかな一日となりました。午前中の森林体験作業では、

美しい富士の全景を間近に望みながら、密植で、枝打ちされていないヒノキの人工林に入り、間伐と枝打ちの作業を体験。小学生が14人ほど参加していましたが森林インストラクターの皆さんや、ボランテイア団体「山盛りの会」の皆さんの指導で、安全かつ充実した体験ができました。





小田原市の子供達 写真広報部 (鈴木松)

みんなでロープを引きながら間伐した木を次々に倒 し、森林のあちこちから歓声が。この作業体験を活か し、これから各小学校や市民活動の現場でも、水源の 森作りにつながる作業が広がることを期待します。午 後は、作業で腹ペコの私たちを、市の環境ボランテイ ア協会のご婦人たちが朝から仕込んでくれたとん汁が 迎えてくれました。美味しくて、私は4杯も頂きまし た。その後、県立丹沢湖ビジネスセンターを基点に、 東に入る小菅沢沿いに、インストラクターの説明を受 けながら散策。途中河原に降り立ち、緑石凝灰岩の様 子や、かって丹沢が生まれた頃の溶岩の痕跡を示す巨 岩などを観察しながら、上流域の清流の雰囲気を堪能。 公務とはいえ、私自身も山の気でリフレッシュができ ました。この企画は酒匂川流域の住民と、水を飲んで いる都市部の住民の交流によって、今後も拡大しなが ら続けていきたいと考えています。

以上、加藤小田原市長の参加感想日記でした (記 5 期 鈴木)

一お詫び一

紙面の都合で 11/21 槐の会様、11/27 日揮様、12/4、タカナシ乳業様、12/11 双日(株)様、12/11 川崎市公園緑地協会様、12/17 清水小学校様 12/18 トラストみどり財団様(大磯運動公園・広葉樹整備)の「活動短信」は3月号に掲載いたします。

(金森)

集

後

★千葉に所有する森林に残る数少な

い杉を1本伐りました、樹齢はなん

と110年、伐ったまま"葉枯ら

リーハウスなどに使用します。伐っ

たあとにはクヌギを植える予定です

★今年、干支は卯年、統計的にもう さぎ年は景気が良いとか。国民預金

1400兆!!老齢者が占めている

らしい。不安な先行き、使えない。

の財産より怖いのは心の貧乏だ。

そんなに有るの、信じがたいが。金

(天然乾燥)にしてあります、 チェンソウと専用治具で製材してツ

やどりき水源林 ミニガイド

1月のトピックス 山の神祭の後

16日/新年会が盛大に開催されました。



2月の水源林

ミツマタの 花々が水源林 を彩るでしょ う!!



「森の案内人」情報

- ●実施時間:毎週土曜・日曜・午前 10 時・午後1時1~2時間程度(12月1月 2 月休止)
- ●集 合:水源林入口ゲート前
- ●内容:森林インストラクターが自然観察 にご案内します。森林のしくみ・手入れ などについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10 人以上の団体は事前に下記までご 連絡ください。

●問合せ:(社)かながわトラストみど り財団 TEL:045-412-2255

fax:045-412-2300

- ホームページ: http://www.ktm.or.jp
- E-mal:midori@ktm.or.jp
- ◆ やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松 田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどり き) | 行き乗車約25分。バス下車後(案 内板あり)川沿いに徒歩35分。

寄大橋の右横が水源林ゲートです。

バ 가情報 & ご案内

企画展

日本最初の植物同好会 横浜植物会の100年

開催期間:~ 2011年2月27日

開館時間:9時~16時半

(入館は16時まで)

休館日:毎週月曜日

観覧料:無料(常設展は別料金)

共催:横浜植物会 協力:小田急グループ

問い合わせ:生命の星地球博物館

TEL: 0465-21-1515

\rightarrow

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集し ています。写真、スケッチなども募集 しております。

送り先

<①電子配信担当>

森 義徳

〒232-0053

横浜市南区井十ヶ谷下町 16-3-202 Tel/090-5433 - 7784Fax/ < 株リコ ー・森宛 045-590-1910>

Mail: myforest@yha.att.ne.jp

<②メール・手書き原稿送り先> 【本誌】村井正孝 〒226-0002

横浜市緑区東本郷 6-22-1-420 Tel/Fax: 045-476-4112Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp 【別冊】金森 厳

T227-0038

横浜市青葉区奈良2丁目10-5 Tel/Fax: 045-961-6695Mai:i_kanamori@morinotabibito.com

【CCで】森本正信

₹194-0001

東京都町田市つくし野 2-13-7 Tel/Fax : 042-796-6011Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp 原稿の締切は毎月20日です。

私達の五感に長い耳を加えた知恵で 頑張ろう。

- ★先日、野鳥観察会に参加してきま した。いろんな野鳥が見られて楽し かったです。写真、会報に使っても らえるかな~楽しみです。 (森)
- ★ 「冬芽の観察でかわいい笑顔に出 会え、今、ハマッテいます」

(水口)

★昨年は7月に12時間差で義父、義 母を、12月末には母を亡くして淋し い正月を迎えました。

明日死んでもいいように、逢いたい 人には逢っておこう。食べたい物も 食べておこう。学べるものは学んで おこう。登りたい山は登っておこう。 今、そんな心境です。 (村井)

★2年ぶりにやどりぎ山の神祭に参 加しました。静まりかえった森の祠 での安全祈願は、お賽銭なしですが 十分に厳粛かつ真剣な気分でおまい りすることができました。(鈴木朗)

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、 郵便局備付けの郵便振替を利用してお申 し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購 読料年2000円をお振込みください。 振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記 してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年 間お届け致します。

(頒 価 200円 送料共)

編集人:村井正孝

広報部: 井出恒夫 (HP) 金森 厳 鈴木松弘 森本正信 森 義徳 鈴木 朗 上野潤二 水口俊則

~ 春 ~

2期の木村光子さんがバネリストとして参加します。一参加申し込み手続き一

相模湾、感じる自然のネットワーク ~ 海藻は海からの手紙~ 参加者募集/参加費無料

2月26日(土)13時30分~16時30分

場所: 茅ヶ崎市勤労市民会館6階A研修室 策推進課 企画グループ 主催:神奈川県、相模湾海辺の環境学習 ネットワーク会議実行委員会

後援:神奈川県教育委員会

定員:100名

(事前申し込み)

2月15日(火)までに電話 かFAXで 行事名・氏名・電 話番号を・・・・。

申し込み/問い合わせ

神奈川県政策局政策調整部特定政

電話 045-210-3260 FAX 045-210-8837

- 8 -